

2026年度一般選抜試験問題

国 語

注 意 事 項

1 ~ 27 を解答しなさい。

1 マークシート式解答用紙が1枚ある。受験番号欄に受験番号5桁を記入し、マーク欄の該当するところをマークしなさい。

氏名を記入してはならない。なお、記入した受験番号やマークが誤っている場合や無記入の場合は、国語の試験が無効となる。

(例) 受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークして下さい。

受験番号				
0	0	6	0	3
<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

2 マークシート式解答用紙に科目名を記入し、その科目コードをマークしなさい。

科目名	国 語	
<input type="radio"/> 英語	<input type="radio"/> 数学 I ・ 数学 A	<input type="radio"/> 基礎学力試験
<input checked="" type="radio"/> 国語	<input type="radio"/> 生物基礎 ・ 生物	
	<input type="radio"/> 化学基礎 ・ 化学	
	<input type="radio"/> 物理基礎 ・ 物理	

注意事項の続きは本冊子の裏にあります

I 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

意見や立場が食い違った場合、どういう態度を取ればよいのだろうか。うまく共通了解を得られない場合である。一般によく見られるのは、何とか自分の考えの正しさを論証しようとする態度だ。もちろん、意を尽くして説明することは重要だが、それが他者への攻撃性に反転するならば、もはや相互の認識論的尊重は失われて、力の論理と終わりの見えない信念対立が場を支配する。そうして、合意や共通了解を得る可能性がますます潰つぶえていくのである。

こういう場合、何な、何な、何な、\*1 エポケーを貫徹することが重要である。対象それ自体の姿を、そのままの形で知ることが決してできない。さらに言えば、世界全体をまるごと知ることが不可能である。こうした認識論的自覚を体現するための方法が、エポケーなのだ。私たちは、総じてみな、同じ条件に立たされていて、それぞれの認識の絶対性と有限性を引き受けざるをえないのである。

しかし、このことは、たとえ自分とは異なる意見や立場だとしても、すす、べべ、ててのの（私）は、同同、じじ、条条、件件に、縛縛、らら、れれ、てて、いい、るる、とといいうう根本的かつ不可避な共通性を確保する。そこから導かれるのは「相互承認」の態度である。それは、互互、いいを、対対、等等かかつつ自由な認識者として認める態度であり、意見や立場を自由に表明する場をつくるために、一番初めに要請される約束事である。すなわち、互いの違いについては相互承認したうえで、全員が確かめて納得できる共通性を見出みい、だだとするのが、新デカルト主義\*2なのである。

別の観点から見れば、これは、生き方の I を認めたくたく、ええで、異なる他者と——同じ人間として——共に生きていくこととする市民の態度でもある。相互承認は、それぞれの（私）の内実がどれだけ異なっていたとしても、一人の市民としては同じである、というメンバーシップの感度に基づくからだ。それゆえ、新デカルト主義は市民社会を成立させるための基礎的な考え方である、とも言えるのである。

しかし、ここで一つ注意すべきは、新デカルト主義の相互承認は、相対主義とは似て非なるものである、ということだ。 <sup>A</sup> 想像

力を駆使した自由変更は、他者の体験に思いを巡らせることを含意するからである。相対性の安寧に閉じこめるのではなく、〈私〉とは異なる他者の体験を追体験し、そのうえで、〈私〉の意識体験を改めて内省し、まずいとところは修正およびテイセイしつつ、共通了解を目指して努力するのが、私がここで提示したい哲学である。これは、〈私〉から出発して普遍性の創出を目指す哲学であり、〈私〉の相対性で満足することはない。( i )

もちろん、合意や共通了解をつくっていくのは、簡単ではない。( ii )しかし、共通了解の可能性を言論の中に担保しておかなければ、後に残されるのは力と争いである。誤解を恐れずに言えば、複数の人間が何かを決めようとする場合、「言論」と「力」という選択肢だけしかないのである。つまり、話し合いか、殴り合いか、ということだ。( iii )

この問題について深追いはしないが、二つのことを言っておこう。一つは、言論と力以外の可能性である。たとえば、AIによる決定、じゃんけん、くじ引きなどが思いつく。( iv )しかし、AIに決めてもらうとどう決めるか。このように問いを立ててみるなら、私たちは再び、先の **II** に呼び戻される。すなわち、AIに決めてもらうことを言論の中で決めるのか、それとも、力のある人がそれを決定するのか、である。結局のところ、言論による共通了解の創出、もしくは、力による覇権だけが残る、ということが分かる。

もう一つは、言論そのものが力のゲームになっている可能性である。コミュニケーションの内側に力の要素が入り込んでいて、見かけ上は民主主義的な手続きで決まっているように見えても、その内実は権力による決定にすぎない、というやつである。私はこれを「形式的民主主義」と呼んでいる。

コミュニケーションをフェアにするための条件——たとえばコミュニケーションの場に権力関係や利害関係を持ち込まないこと——を徹底することで、よりよいコミュニケーションの場をつくろうとする。ところが、現実世界における組織の決定では、そんなにうまくはいかない。それどころか、形式的民主主義の場合が圧倒的に多い。この感覚は広く共有されているにちがいない。( v )

たしかに、コミュニケーションに潜んでいる暴力性は、やっかいな問題である。現代分析哲学をセンモンとする三木那由他

は、コミュニケーションを約束事を積み重ねていくプロセスとしたうえで、その約束事を一方にとって都合のいいように捻じ曲げるコミュニケーションの暴力を「意味の占有」と呼んでいる。三木によれば、それは「発話がどのような意味を持っているかの決定権を独り占めし、相手が口出しできないようにしたうえで、そのようにして自分に都合のよいように捻じ曲げた約束事に相手を服従させる、というイメージ」である。

力のある者が約束事の意味を独占し、それをいいように解釈する。たとえば、会社の会議でプロジェクトの分担をして、その後、取引先との交渉がうまく進まなくなったとき、上司に「お前、あの時、やるって言ったよな」と、自分一人が責められるような場合である。会議の際の約束事では、全員でこのプロジェクトを進めていく、ということだったのに、状況が悪くなったら上司はその約束事を歪曲し、自分一人がこのプロジェクトの担当者である、という意味だったことに変えてしまう。そうして、失敗の全責任を部下に背負わせる。

こういう事例は、枚挙にいとまがない。コミュニケーション的行為そのものが力のゲームになっている、というわけである。普遍性は全体性に反転する可能性がある以上、これは非常に重要な視点だ。しかし、コミュニケーションに内在する暴力契機を批判するためには、もう一つのコミュニケーションをつくりだすしかないだろう。そうでなければ、力によって力をクタクス<sup>(ウ)</sup>以上<sup>(E)</sup>のことができなくなるからである。

つまり、コミュニケーションのありようを批判的に見る視点を維持しつつ、力の正当性の根拠を言論による共通解に置く<sup>(カ)</sup>か、ないのである。コミュニケーションに入り込んでいる暴力性を警戒するあまり、力の正当性に関する議論がなくなるなら、それこそ暴走する複数の力による対抗関係だけが残されることになる。だからこそ、さまざまな問題点があっても、言論は捨てられないのだ。もちろん、力による覇権の方がよい、と多くの人が考えるなら、人間社会は闘争状態に差し戻されるほかない。それは、ルールではなく、純粋な権力関係で運営される社会となる。

私の考えをタンテキ<sup>(エ)</sup>に述べれば、こうである。言論は「正しさをめぐる争い」ではなく、「協働のプロジェクト」だ。個人戦ではなく、チームでプロジェクトを進めていくのが言論だと捉えれば、誰かからよいアイデアが出れば、それでOKだろう。とす

れば、どういう態度を養っていけば、また、どういうチームづくりをすれば、さまざまな場所からよいアイデアが出やすくなるのか、ということに注力する。意見や立場の違いをカンゲイ(オ)しつつ、しかし必要な場合に、それらの差異を越境する普遍認識の可能性を担保しておく。相対主義と独断主義を調停しながら、それでも前に進んでいくためには、こういう地道なプロセスを繰り返していくしかない。

〈私〉の信念を正当化してくれる強い理論と一体化して、それとは異なる考えを徹底的に論駁ろんぱくするのは、気持ちがいいことかもしれない。優良な善のパッケージを手軽に買って、それを武器にして戦えば、サイバースペースで相手の意見を論破し、不特定多数から見せかけの承認を得ていくことは難しくない。

しかし、いま本当に求められているのは、〈私〉の世界認識のありようを検証しながら、〈私〉の輪郭と普遍性への期待を取り戻すことである。正しさだけを追い求めても、〈私〉の思考は行き場を失う。〈私〉Fだけが絶対Fに正しくて、それに同意しない者は間違っている。正しさの公準は人それぞれであって、共通了解は不可能である。どちらも言論に対する不信や絶望を深めるだけだから。そして、この相互不信の先に待ち構えているのは、終わりなき闘争である。実際、私たちの社会は、このような力のゲームに近づいていないだろうか。

(岩内章太郎『私』を取り戻す哲学』による 出題の都合上、一部中略した箇所がある)

(注) \*1 エポケー——対象それ自体が何であるかについては、判断を保留する態度のこと

\*2 新デカルト主義——デカルトは十七世紀のフランスの哲学者。デカルトの説いた、精神と物質が独立し、存在

するものであるという物心二元論に立つ考え方を現代的な視点で再解釈し、発展させたものの

問1 傍線部(ア)～(オ)に該当する漢字を含むものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

1

5

(ア)

テ|イ|セ|イ

1

- a テ|イ|コウの声|が|挙|がる
- b 港|の|テ|イ|ボウを|整|備|する
- c 書|籍|を|カ|イ|テ|イ|する
- d 記|念|品|を|シ|ン|テ|イ|する
- e 裁|判|所|に|シ|ユ|ツ|テ|イ|する

(イ)

セ|ン|モ|ン

2

- a セ|ン|レ|ツ|な|印|象|を|残|す
- b 塩|の|セ|ン|バ|イ|制|を|廃|止|する
- c 人|の|こ|と|を|セ|ン|サ|ク|し|ない
- d 級|友|か|ら|の|セ|ン|ボウ|を|集|める
- e 言|葉|の|意|味|が|ヘ|ン|セ|ン|する

(ウ)

ク|チ|ク

3

- a 彼|女|と|は|チ|ク|バ|の|友|だ
- b 関|係|性|を|コウ|チ|ク|する
- c 経|験|が|チ|ク|セ|キ|さ|れる
- d チ|ク|サ|ン|業|が|盛|ん|な|地|域|だ
- e 英|文|に|チ|ク|ゴ|訳|を|施|す

(工)

タン|テキ

4

a 誤解にタンを發する争い

b レイタンな態度を取る

c 日頃からタンレンを欠かさない

d タンセイ込めて野菜を育てる

e 作業工程をタンシユクする

(オ)

カン|ゲイ

5

a カン|ビな旋律を奏でる

b 難しい課題にカカンに挑む

c カンセイな住宅街が広がる

d 人生のアイカンを共にする

e 規制のカンワを求める

問2 空欄

い。I

6

II

7

に入る語として最も適當なものを、次の各群のa、eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

I a 現実性

II a 二律背反

b 柔軟性

b 他力本願

c 共通性

c 二者択一

d 汎用性

d 共存共栄

e 複数性

e 優柔不断

問3 この文章からは、次の一文が抜けている。もとの場所に戻すとしたら、どこに入るか。最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

8

もしかしたら、何となく胡散臭く響くかもしれないが、突き詰めて考えるなら、決定手段というものは、一般に思われているほど多くはない。

- a ( i )      b ( ii )      c ( iii )      d ( iv )      e ( v )

問4 傍線部A・Dの意味として最も適当なものを、次の各群のa～eの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

A 9

D 10

A 似て非なるもの

- a 表面だけを似せてあざむくこと  
b 同種のものだが全く似ていないこと  
c あまりに似ていて非難されること  
d 外見はそっくりだが本質は異なること  
e 言うことは立派だが内実を伴わないこと

D 枚挙にいとまがない

- a 日常茶飯事である  
b 数え上げるときりがない  
c めったにあることではない  
d 反論する余地がない  
e 今後もなくすることはない

問5 傍線部B「これは、〈私〉から出発して普遍性の創出を目指す哲学であり、〈私〉の相対性で満足することはない」とあるが、  
どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

11

- a 相対主義はそれぞれに良さがあることを認めるが、新デカルト主義の相互承認は、お互いの良さを見つめ合うことで成  
立する哲学であるということ
- b 相対主義は絶対的な価値を否定して〈私〉と相手の差異性を活かすが、新デカルト主義の相互承認は、共通了解の絶対性  
を信じる哲学であるということ
- c 相対主義は〈私〉と相手の考えが同一でないことを容認するが、新デカルト主義の相互承認は、違いの起こり得ない普遍  
性を求める哲学であるということ
- d 相対主義は比較対象を否定することで成立するが、新デカルト主義の相互承認は、共通了解を導く意識体験の可能性を  
追求する哲学であるということ
- e 相対主義は立場の違いによって考えが違うとするが、新デカルト主義の相互承認は、想像力を駆使して共通了解を作り  
出そうとする哲学であるということ

問6 傍線部C「私はこれを『形式的民主主義』と呼んでいる」とあるが、筆者が「形式的民主主義」と呼ぶのはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

12

- a 民主主義の基本である多数決による決定は、少数派を無視しているから
- b 公平に行われた言論に見えても、実際には権力関係に基づく決定だから
- c 話し合って導かれた結論に見えて、実は初めから結論が決まっているから
- d フェアな立場で話し合うためには、権力を取り除くための闘争が必要になるから
- e 実社会における組織の意思決定では、民主的な話し合いが推奨されていないから

問7 傍線部E「もう一つのコミュニケーションをつくりだすしかないだろう」とあるが、「もう一つのコミュニケーション」とはどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

13

- a 自分の都合のいいように捻じ曲げた約束事に、力関係で弱者に当たる相手を従わせるコミュニケーション
- b 積み重ねてきた約束事を権力によって改変できないよう、主張の正しさを担保するコミュニケーション
- c 力の妥当性を議論して、コミュニケーション行為に入り込んでいる暴力性を排除するコミュニケーション
- d 意見や立場の違いを当然のこととして受け入れたうえで、言論による合意を模索するコミュニケーション
- e AIに判断を委ねることで、互いの利害に関係なく合理的な結論を導き出そうとするコミュニケーション

問8 傍線部F「どちらも言論に対する不信や絶望を深める」とあるが、なぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次の

a～eの中から一つ選びなさい。

14

- a 自分だけが正しいと思えば対立しか生まず、正しさは人それぞれと考えるのは合意に至る努力を放棄することになるから
- b 正しさだけを追い求めれば思考停止に陥り、自分に同意しない者は間違っていると考えていたら狭い世界しか見えなくなるから
- c 互いに自分の正しさを主張すれば相互不信に陥るだけであり、正しさの基準を探すことをやめれば共存共生は難しくなるから
- d 自分の考えを認めない者を排斥するのは多様性を認めない独善的な行為であり、共通理解をあきらめれば言論の意義を失うから
- e 自分が絶対的に正しいと思えば力でもたつて争いになり、複数の正しさを認めてもまた正しさをめぐると争いは起こるから

問9 本文の内容に合致しないものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

15

- a 私たちは、ある対象への認識や立場が異なっている、各自の認知は絶対性と限界を有するという点では同じ条件下に立たされている。
- b 言論は、どちらが正しいかを明確にさせたり異なる意見を封殺したりするためには、相互の信念を尊重しつつ協働していくためにある。
- c 筆者が支持する新デカルト主義は、多様性を重視する現代社会に必要な、市民社会を成立させるための基礎的な考え方であるといえる。
- d 複数の人間が何らかの決定を行うときには、話し合って決めるか、権力を持つ側が力で屈服させるか以外の選択肢をとることは決して許されない。
- e 三木氏は、権力側が約束の意味を自分の都合のいいように解釈し、「力」を受け入れざるを得ない状況をつくり出すことを「意味の占有」とした。

## II 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

\* エシカル消費をめぐるソパールの視点の特徴は、これまで自己利益とは切り離されたものとされていたエシカル消費を自己利益の追求として理解する点にある。それは、社会・環境的配慮が個人の自己利益に内部化されているという状況を理論的に再定式化する試みであった。ソパールは「もうひとつの快樂主義(alternative hedonism)」という枠組みを用いて、その分析視座を提示する。

A もうひとつの快樂主義とは、近代産業社会における物質的なライフスタイルの副産物(騒音、汚染、危険、ストレス、健康リスク、過剰な廃棄物、<sup>(ア)</sup>ケイカンの破壊)によって楽しみや満足みだの源が失われそれらが実現できない状態において、そうした副産物を避けつつ、それとは異なる仕方での消費のなかに楽しみや満足を見出す態度である。ソパールは例として、自動車での移動が騒音や汚染、渋滞など不快な副産物を生み出すため、ウォーキングやサイクリングに切り替えるという行動を説明する。自動車による副産物を避けるという側面を見れば、これは一種の禁欲に見えるが、ソパールはそこにウォーキングやサイクリングそれ自体の固有の楽しみを人々が見出していると捉え、既存の消費社会では味わえない快樂性の追求としてそれらを把握する。ファストフードを避けたり、フェアトレード商品を選んだりすることも同様に、そうした快樂性のもとで理解できるとソパールは言う。

このもうひとつの快樂主義という概念は、特定の種類の態度や行動の類型(たとえばカウンターカルチャー)を指すものではない。それは、今日における人々の状況を産業社会的な消費主義(イ)に対するユウウツとして捉え、ここでは満たされなかった様々なもうひとつの楽しみウの先取りとしてエシカル消費を捉える、という理論的な枠組みである。重要なのは、ソパールの議論は消費を通じた欲求充足の追求に対する **I** として社会や環境に対する配慮を唱えるものではなく、従来の消費主義のなかでは満たされなかった欲求の充足に向けられたものとして社会や環境への配慮を捉えるものだという点である。つまり、欲求の充足という形式それ自体の否定ではなく、人々にとつての「良い生活」の意味内容の差異と多様性に目を向けることで、近代産業社会の視座では「禁欲」にしか見えなかった行為の快樂性にケンキュウしているわけである。

ソパールの快楽主義の重要なモデルとなっているのは、一九世紀のアメリカ市民社会論に大きな影響を与えた詩人H・D・ソローである。ソローは自然に囲まれた田舎で自給自足の生活を過<sup>①</sup>したが、彼はその生活をけつして禁欲として表現せず快楽として表現した。ソローにとって「物質主義的ライフスタイルは、味や匂い、音、そして散歩や読書といった活動を人々が楽しみ<sup>②</sup>をキョウジユする可能性を減退させてしまうもの」にほかならなかった。ソローの自給自足はその失われた快楽の獲得へと向けられたものであった。

ソパーが捉えようとするのは、ソローのように既存の消費主義に落胆しその不満を埋めるべく別様の仕方での消費の楽しみを追求するあり方だと言える。しかしソパーの議論は、他者や社会への顧慮を自己の欲求充足に還元<sup>③</sup>することで消費の市民的側面を見落としているのではないかと疑問も生じさせる。以下では、消費と市民性を対立させるA・センに対するソパーの批判を通じて、どのように消費と市民性の関係が位置づけ直されるのかを見ていこう。

消費者と市民は長らく相反するものとみなされてきた。消費者は私的な楽しみや達成を考慮するものとして概念化される一方、市民は自らの欲求と欲望を越えて公共財(コモンズ)を視野に入れる非利己的な主体として概念化されてきた。エシカル消費も、「利己的」な消費者と「熟慮ある」市民という二項図式にもとづいて論争されてきた。ソパーは、この二項図式そのものに疑いを差し向け、議論の前提それ自体を再構成する。

ソパーによれば、新古典派経済学の特異な「経済人」の想定は、消費者を狭い意味での経済的利益の概念化に押し込めることで利他や熟慮といった市民的側面を Ⅱ してしまった。だがその想定は既に広く批判され、今日ではむしろ他者志向的な動機が社会科学における行動の説明においてより中心的役割を占めるようになった。そのもつとも優れた理論のひとつがセンの理論であると言う。ソパーは、経済人という想定に批判的な立場という点ではセンと軌を一にする<sup>④</sup>。しかし、センの理論は市民意識と個人生活を分裂させることで成り立っていると批判を向ける。

センは「その人の手に届く他の選択肢よりも低いレベルの個人的厚生をもたらすということ、本人自身が分かっているような行為を他者への顧慮ゆえに選択する」あり方をコミットメントとして定義し、自己利益の追求(生活水準の達成)と排他的に区

別されたそれを市民性の条件に据える。センは社会的な公正や環境保護が人間の「生活水準」の達成と無関係な理由にもとづくべきであることを主張し、市民性は消費と切り離されたものと強調する。

それがもつともよく表れている箇所として、ソパーは絶滅が危惧されるニシアメリカフクロウの保護をめぐるセンの主張を取り上げる。センは「私たちの生活水準(living standard)はフクロウの存在の有無にはほとんど、あるいは全く影響されることはないが、しかし人間の生活水準とは関係なく、フクロウを絶滅させてはならないと私は強く信じている」と論じる。ここでセンは市民という役割への参加を、生活水準の維持者としてのより受動的な行動とは別のものとして提示しているとソパーは言う。センは「生活水準」の概念を経済成長(GDP)の文脈で使用しているが、消費者はその生活水準の維持者にすぎず、したがって自らの生活水準と切り離して社会を見据える市民的コミットメントが環境保護において重要だとセンにおいては主張されることになる。

ソパーがここで批判するのは、市民と消費者の相互排他的な図式化である。というのも、生活水準を経済成長と捉えるセンの想定は実は「経済人」の裏返しであるとも言える。つまり、センは「純粋な経済人」というモデルを批判する一方、消費者的態度(生活水準の向上)を批判する際には「純粋な経済人」というモデルを蘇<sup>よみがえ</sup>らせてそれを消費者に投影している。フクロウの保護と生活水準の向上の排他的な関係を支えているのは、新古典派とセンに共有されている自己利益の概念定義だとも言える。

ここでソパーが主張しているのは、自己利益とコミットメントの区別そのものに対する批判である。ソパーの狙いは、センが提起した図式と対比しながら、自由、環境保護、持続可能性に関する市民の関心が「生活水準」の維持と結びついた「良い生活(good life)の実践や概念化とミ<sup>オ</sup>ッセツにつながる」と主張することである。つまりソパーは、個人の生活水準を生活の質という観点から再概念化することで、フクロウの保護を個人の生活水準の向上としてみなすことを可能とする新たな理解の枠組みの必要性を主張しているのである。

以上のようにソパーは、センも暗黙的に維持している「経済人」的な消費者像そのものを批判し、生活水準の向上として他者や社会への配慮を捉える見方を提示する。したがって「エシカル消費はけっして、自己の目下の個人的な関心を越えて世界に責任

を負うようになる反省的で責任ある行為として理論化されるのではない」。フクロウを守るのは誰のためか、ソパーならこう答えるだろう。それは、フクロウのいる世界に住みたいと願うほかならぬ私たち自身のためであると。

（畑山要介「快樂としてのエシカル消費——ケイト・ソパーによる認識論的転回」

『ロスト欲望社会 消費社会の倫理と文化はどこへ向かうのか』所収による）

（注） \*エシカル消費をめぐるソパーの視点——本文は、エシカル消費（社会や環境に配慮された消費）に関する、哲学者ケ

イト・ソパーの議論について述べたものである。

問1 傍線部(ア)～(オ)に該当する漢字を含むものを、次の各群の a～e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

16

20

(ア)

ケイ|カン

16

- a 中国文学にケイ|トウする
- b 隣国とのレンケイ|を強める
- c ケイ|キ回復の兆しを見せる
- d 会合をケイ|ゾク的に設ける
- e 定期的にキユウケイ|をはさむ

(イ)

ユウ|ウツ

17

- a 期限にユウ|ヨを与える
- b 石油がユウ|シユツする
- c 霧深いユウ|コクを訪ねる
- d 計画の遅れにユウ|シヨクを示す
- e 彼のユウ|ダンに皆が感心した

(ウ)

ゲン|キユウ

18

- a 原因のキユウ|メイに努める
- b キユウ|ヘイな見方を改める
- c 議論がフン|キユウを極める
- d フキユウ|の名作といわれる
- e なんとかキユウ|ダイ点を取る

(エ)

キヨウジユ

19

- a 恐怖のあまりゼツキヨウする
- b キヨウラク的な生活を送る
- c おみくじでキツキヨウを占う
- d キヨウジュンの意を示す
- e 敵のキヨウゲキを受ける

(オ)

ミッセツ

20

- a 再戦してセツジヨクを果たす
- b チセツな言い訳を繰り返す
- c 金属の板をセツゴウする
- d 多くの要素をホウセツする
- e クッセツした願望を抱く

問2

傍線部A「もうひとつの快樂主義」とあるが、その具体例として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

21

- a 紙の消費を抑えて森林保護に寄与するために、電子書籍の購入を呼びかける。
- b ごみを減らすために、むやみに物を買わず、広告も目を通さずに節約に励む。
- c 電力の使用による環境への負荷を減らすために、日中は照明をつけずに過ごす。
- d 外出時の交通渋滞を避けるために、連休ではなく平日に休暇を取って出かける。
- e 地球温暖化防止に協力するために、自家用車やタクシーの通行を自制する。

問3 空欄

い。I

22 I

II 23

II

に入る語句として最も適当なものを、次の各群の a ~ e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

I a ジレンマ

b パラドックス

c アンチテーゼ

d イデオロギー

e パラダイム

II a 捨象

b 退化

c 実存

d 具体化

e 焦点化

問4

傍線部 B・D の意味として最も適当なものを、次の各群の a ~ e の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

B 24

・ D

25

B 還元

a 元の性質を重視すること

b 元あったところに戻すこと

c 根源的な性質に戻すこと

d 余計な要素を取り除くこと

e 既存の価値を損なうこと

D 軌を一にする

a 考え方が同じである

b 同じ運命をたどる

c 同じ境遇にある

d 同意を求める

e 同門の学者である

問5 傍線部C「ソパーは、この二項図式そのものに疑いを差し向け、議論の前提それ自体を再構成する」とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次のa～eの中から一つ選びなさい。

26

- a ソパーは、消費者は私的な楽しみや達成を考慮し、市民は非利己的な主体として公共財を視野に入れるものという捉え方を誤りと考えたということ
- b ソパーは、消費者と市民の二項対比的な図式をさらに発展させて、市民意識と個人生活を別個の存在として捉えるべきであると考えたということ
- c ソパーは、新古典派経済学の「経済人」という概念が、消費者を経済的利益のみを追求し、利他や熟慮といった心理を持たないとおとしめたということ
- d ソパーは、消費者が自己利益の追求を行う者とされることを批判し、自己の欲求の充足よりも他者や社会への顧慮を優先すべきであると考えたということ
- e ソパーは、消費者と市民を相反するものと捉えず、個人の自己利益に社会・環境的配慮が内部化されたものがエシカル消費であると考えたということ

問6 あなたは今後、本文で「エシカル消費」として説明されたような消費行動を取ることについてどのように考えるか。現在のあなたの普段の消費のあり方に触れつつ、二百字以内で解答用紙に述べなさい。

27

## 注 意 事 項 続 き

3 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。マークは**HB**または**B**の鉛筆（シャープペンシル可）で濃くマークしなさい。解答用紙を折ったり曲げたりしてはならない。

例えば 

2
---

 と表示のある問に対して **c** と解答する場合は、次の(例)のようにマークシートの**2**の**解答欄**の**c**にマークしなさい。

指定欄以外へマークした場合は解答が読み取れなくなる場合があるため、記入しないこと。訂正は、消しゴムできれいに消すこと。

(例)

(マークの仕方)

解答 番号	解答欄				
	a	b	c	d	e
1	(a)	●	(c)	(d)	(e)
2	(a)	(b)	●	(d)	(e)

良い例	悪い例
●	

4 マークシート式解答用紙に加えて記述式解答用紙の受験番号欄に受験番号5桁を記入しなさい。氏名を記入してはならない。

受験番号  
00603

	国語 II 問6 解答用紙	下書き用紙

5 試験終了後には、問題冊子の上に記述式解答用紙を裏返し、その上にマークシート式解答用紙を裏返して置きなさい。解答用紙の回収後は監督者の指示に従うこと。

6 問題冊子は持ち帰ること。